



第10号

小報もがみ

最上から考える地球のこと

2018年から赤倉のRA-MEN与平治で開催されている与平治ナイト。世界で起きている環境や食の問題などを取り上げたドキュメンタリー映画をみんなで鑑賞し、飲みながらちょっと考えてみるという、難しい問題に気軽に触れてもらうためのイベントだ。その主催者である山田建設の山田孝社長は弱冠43歳。やり手のイケイケ社長、ではなく、最上訛りにも愛着が湧く人柄で、幅広い世代からの信用も厚い。他にも持続可能なまちを目指して多岐に渡り活動している。その原動力はどこから来ているのだろうか。

——社長はドキュメンタリー映画の上映や、環境に配慮した取り組みをされていますが、何かきっかけがあったのですか。

東日本大震災だね。今の住宅やライフラインの脆弱さに気付いちゃって。毎度毎度の世代が家に何千万も、一生かけて払うわけじゃん。それが震災で電気止まった途端、寒くていられないような単なる小屋みたいな状態になったのがショックすぎて。それに数十年で建て替えられてしまうサイクルがダメだなあって。そこから気になって調べ始めて、ヨーロッパの家とかこういうもんなんだとか、なんでこういう風にでぎねんべかな、っていうのがきっかけだった。だから自分の家を建て直して、その循環を止めようがなと思ってる。あったかくて何年も持つ家。畑とかも準備したり、山の中から薪取って循環できるような仕組みを整えて、子どもにやろうかなって。

——なぜドキュメンタリー映画につながったのですか。

家をきっかけに、各業界の闇が見えてきて、全てにおいて疑わしくなってきたんだよね。食べ物だって、実は自分で選んでなくて、食わされてるべっちゃ。いつの間にかそういう方向へ向かわされてるからって。そういうのに気付いてもらいたいから、色々なジャンルで上映するようになった。考え方のひとつだけだね。押し付けとかそういうのじゃない。ちょっとでも気付きがあったらいいべなあって。誰も教えてけんねければ、そんな世界があることも知らないし。俺も知らなければ電気と石油も何にも考えないで使って一生そのままだったと思うし。知っている人が伝えるらんねって。

——教育の中でも、そういうことを伝えられたらいいですよ。

場がないよね。赤ちゃんには無添加で、大人になったら何でも良くなるって何なんだべずね。で

も、子どもができるっていうのは、そういうことを考えるきっかけでもあるね。

——映画以外の取り組みとしては何をされていますか。

再生可能エネルギーで電力の地産地消を目指して活動を始めたところ。ドイツあたりでは出来るんだけど、まちの不採算部門を電力の利益で補うということをやっている。電気代は少し高くなるかもしれないけど、買ってくれている人への生活支援のサービスもできる。そんな感じを最上でもやりたいんよ。なかなか少しでも高いと敬遠されるけど、地域経済の循環の大事さを上手く伝えられるかだね。地元で買い物する意味とか。そういうのを学べる場が必要だね。文化財の保護も、そういうところってお金ないから、電力の利益を使いたいんよ。神社の補修とか、歴史的文書のデジタル化とか。

——そういった取り組みの原動力となっているものは？

ローカル愛。地元への愛情だべっちゃ、全ては。

——本当に最上町が好きなんですね！

んだんかなあ！地元だからね～。あと、使ってねえ農地とか活用して太陽光パネルと日本ミツバチの養蜂を組み合わせるとか。そうすつと農地を変えなくなるといいわけよ。めんどくせえんだ農地の別の活用って。ドイツかどこかの事例として見たんよ。土地を造成せずに、小動物に配慮したりして。日本ではまだないから、やってみたいや～。

——やりたいこと、たくさんですね！

あとは遊びだね。地元での遊び。まずは自ら楽しんでいきたい。キャンプとか川とか、スノースポーツ。息子は魚突きしてる。本人は釣りしっただけ釣れねがら（笑）。俺らのちゃっこい頃は自転車でバンバン川とか行ってたけど今は無理ながら息子連れて。親が連れて行かないと行く機会ないからよ。

——子どもたちに、もっと最上の自然に触れ合う遊びさせたいですね。

大場満郎さんのエドベンチャースクールとか最高いや。うちの子どももずーっと行ってただけで、サッカー始めてから行けなくなって。授業の一環でやって欲しい。

——クラブや部活もいいけど、いろんな体験とか経験も大切ですね。考える力を養うこと。これからの時代を生き抜くのに必要な気がします。

ちゃっこいうち経験できないと、そういうところに行かないしね。自分で考える力を養う教育している国はテストとかしないし。

——勉強する意味を知らないと学んでいても身に入っこないですね。私もそうでした。

建設業協会で高校生たちに話す機会があって、大学なんか行かなくなっただけいいって言うんだけど。ここで働いて建設業に就くんであればね。時間とお金使って何してきたんだらうっていう人いっぱいちゃ。俺は2週間で大学辞めたらからよ（笑）。

——えっ！2週間！？

授業がつまらないし、行っても休講だったりして。都市環境デザイン科だったんだけど。安藤忠雄が好きだったから、建築事務所に行きたかった。でも、大学院まで出ないと行けないよ、って。ダメ元で聞いたけど採用しないって。んで、諦めてスノボしにアメリカに行った。語学とスノーボードを共に学べるっていうのがあって。半年くらい行ったかな。その後、ニュージーランドに滑りに行ったら大怪我してヘリコプターで運ばれて1ヶ月くらい入院して…それで最上に帰ってきたんよ。当時は現場で働いて、毎晩スケボーして酒飲んで暮らしてた。仕事にも身が入んねがったけど、同業の同世代の人たちがしっっかりしてて、このままじゃダメだなって、真面目にやるぐなって。そんな時に父親が亡くなって27歳で急に継ぐことになった。土木の勉強もしてなかったけど、なんでこの仕事をする意味があるんだらうって突き詰めて考えるようになった。そうすつと、すべきこと、しなくていいことが見えてくっちゃ。で、今に至る（笑）。

第7回与平治ナイト「気候戦士」

気候変動を止める気候活動家の挑戦に密着したドキュメンタリー映画

2020年11月28日（土）18:00開場19:00開始

場所：RA-MEN与平治（赤倉温泉スキー場内）

お問合せ：山田建設株式会社 0233-43-2168

2020年11月25日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香葉子
情報提供や山崎とお話したい方はご連絡ください
電話0233-43-2261（最上町役場まちづくり推進室）

メールhayakawamiyage@gmail.com